

## ⑩ カメムシの罠

栃木県のとある田舎町、甲状腺検診の会場は、検査を受けに来た子どもたちや、お母さんお父さんたち、それにボランティアの人たちで賑わっていた。その日は、百人以上の検査があるらしい。見学に立ち寄り、初めて会う検査医師にあいさつをした。

異変に気付いたのは、上着を脱ぎ地元のお菓子とコーヒーが準備されたテーブルに着いた休憩時間だ。独特のそのニオイは：カメムシだ！ そういえば家を出る前、カーテンに張り付いたカメムシを外に逃がしてやった。その時の強烈な臭いのエキスに違いない。

我々は放射能汚染の現状や健康被害について、忌憚なく意見を交換し合った。見えない「臭わない」放射能は…、「風下」の汚染状況は…。いかん、大切な話に入っていけない。そこには、カメムシごときに動揺させられていた自分がいた。

有意義な会話の中にあっても、人の心をかき乱すカメムシ、おそるべし。



認定NPO法人 いわき放射能市民測定室

たらちねクリニック

院長 藤田 操